

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックA- I		
必修選択	必修	(学則表記)	美容ベーシックA- I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第2課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第2課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりのベースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第2課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト50% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田佳奈	実務経験	○		
実務内容	美容師として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
2	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
3	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H

4	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
5	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
6	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
7	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
8	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
9	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
10	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
11	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
12	オールウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
13	オールウェーブセッティング	テスト
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックA-Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	美容ベーシックA-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第2課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第2課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりのベースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第2課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト50% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田佳奈	実務経験		○	
実務内容	美容師として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
2	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
3	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H

4	オートウェーブセッティング	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティング4H
5	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
6	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
7	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
8	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
9	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
10	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
11	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
12	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生(技術における衛生上の取り扱い) オールウェーブセッティングまたワインディング4H
13	総合授業	総合授業
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎理論 I		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎理論 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論1 美容技術理論2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識 I・美容知識 II・美容知識 III・美容知識 IV				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 太一 他3名	実務経験	○		
実務内容	美容師として20年従事、2016年より「美容技術理論」「保健」を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	≪ 8章 エステティック ≫ 1. エステティック概論 2. 皮膚の生理と構造 3. カウンセリング	・エステティックの歴史、範囲、心得、注意点・皮膚の構造・カウンセリングの目的・実際、エステティックにおけるカウンセリング
2	4. 美容におけるマッサージ理論 5. フェイシャルケア技術 6. フェイシャル及びデコルテマッサージ 7. フェイシャルパック 8. ボディケア技術 9. ボディマッサージ	・基本手技・フェイシャルの効果、方法・デコルテ、フェイシャルの手順 マッサージにおける手の動かし方と操作ポイント
3	≪ 9章 ネイル技術 ≫ 1. ネイル技術概論 2. ネイル技術の種類 3. 爪の構造と機能 4. 爪のカット形状 5. ネイル技術と公衆衛生 6. カウンセリング	・ネイルケア、アーティフィシャルネイル、ネイルアート・爪の構造と機能・爪のカット形状・消毒方法の種類、器具の消毒手順、テーブルセッティングの一例・カウンセリング

4	7. ネイルケア 8. アーティフィシャルネイル 9. 手と足のマッサージ	・ネイルケアの道具、マニキュア・ペディキュア技術の手順・アーティフィシャルネイル技術の道具、プレパレーションの手順、ナチュラルネイルオーバーレイ技術の種類、ジェル技術の手順、シルクラップ技術の手順・グルー&フィラー技術の手順、アーティフィシャルネイルの追加とオフ・ハンドマッサージのポイント・手順、フットマッサージのポイント・手順
5	《 10章 メイクアップ 》 1. メイクアップ概論 2. 顔の形態学的な観察 3. メイクアップと色彩 4. 皮膚の生理と構造 5. メイクアップの道具 6. スキンケア 7. ベースメイクアップ	・メイクアップ概論(サロンワーク・スタジオワーク)・顔のプロポーション、顔の骨格と筋肉、顔の立体研究、メイクアップによる立体感、顔の凹凸に基づいたブロッキング・色の三属性、マルセル表色系による色の分類、角度配色・皮膚の生理と構造・メイクアップの道具・クレンジング、トーンニング、プロテクティング・ファンデーションの目的・選び方、塗り方と順序の一例、多色塗り、ハイライト、ローライト、カバーホワイト ベースメイクのアクセントカラー・パウダリング
6	8. アイメイクアップ 9. アイブローメイクアップ 10. リップメイクアップ 11. ブラッシュオンメイクアップ 12. まつ毛エクステンション	アイライン、アイシャドー、カラーアイシャドー、パウダーアイシャドー、アイラッシュカール、マスカラ つけまつ毛のテクニック・眉の整え方、ドローイング、シェーディング ・リップの丸みのある描き方、鋭角的な描き方、ブラッシュオンメイクアップ ・まつ毛エクステンションにおける衛生及び保健、道具の一例・カウンセリング、注意事項、施術の一例
7	総まとめ	テストを実施する 8章～10章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	《 11章 日本髪 》 1. 日本髪の由来 2. 日本髪の各部の名称 3. 日本髪の種類と特徴 4. 日本髪と調和	・日本髪の由来・日本髪の各部の名称・日本髪の種類と特徴・日本髪と調和
9	5. 日本髪の装飾品 6. 日本髪の結髪道具 7. 日本髪の結髪技術 8. 日本髪の手入れ 9. かつら	・日本髪の装飾品・日本髪の結髪道具・日本髪の結髪技術 ・日本髪の手入れ・かつら(かぶせ方、飾り方、付け方、簪の位置、外し方、持ち方、しまい方、手入れ)
10	《 12章 着付けの理論と技術 》 1. 着付けの目的 2. 礼装 3. 着物と季節 4. 着物のいろいろ 5. 帯 6. 小物 7. 着物各部の名称 8. 着物のたたみ方	・着付けの目的・女子礼装、男子礼装、礼装生地、準礼装、心得・着物と季節・着物のいろいろ・帯・小物の種類・着物の各部の名称・着物のたたみ方
11	9. 着付けの一般的要領 10. 留袖着付け技術 11. 振袖着付け技術 12. 帯締め、帯揚げの結び方 13. 男子礼装羽織、袴着付け技術	・体型補正、長襦袢の着付け・着物の着付け、帯結び・帯締めの結び方の一例、帯揚げの結び方の一例、男子礼装羽織、袴着付け技術
12	14. 羽織のひもの結び方 15. 女子袴着付け技術 16. 婚礼着付けの際の注意事項 17. 和装花嫁 18. 洋装花嫁(ウエディングドレスの知識)	・羽織のひもの結び方・女子袴着付け技術・美容師自身の身だしなみ、不測の事態に備える、緊張をほぐすための細かい配慮、花嫁の動作に注意する、機敏な動作・和装花嫁・洋装花嫁
13	まとめ	まとめを実施する 11章～12章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
14	解説	まとめの振り返り・解説
15	美容技術理論Ⅱ 総まとめ	美容技術理論Ⅱ 総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎理論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論1 美容技術理論2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 太一 他3名	実務経験	○		
実務内容	美容師として20年従事、2016年より「美容技術理論」「保健」を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	美容技術理論Ⅰ 序章・1章	美容技術理論を学ぶにあたって・美容道具 重点項目振り返り
2	美容技術理論Ⅰ 2章・3章	シャンプーング・ヘアデザイン 重点項目振り返り
3	美容技術理論Ⅰ 4章・5章	ヘアカッティング・パーマメントウェーピング 重点項目振り返り
4	美容技術理論Ⅰ 6章・7章	ヘアセッティング・ヘアカラーリング 重点項目振り返り
5	美容技術理論Ⅰ 総まとめ	美容技術理論Ⅰ まとめを行う
6	対策	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
7	まとめ	まとめを実施する 美容技術理論Ⅰ・Ⅱ の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説

9	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
10	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
11	まとめ	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
12	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	各校フリー	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識 I - I		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識 I - I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理1 衛生管理2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識 I・美容知識 II・美容知識 III・美容知識 IV				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	稲生 恵実他1名	実務経験	○		
実務内容	看護師として8年勤務。本校にて保健を担当。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れ 筆記試験の問題形式・問題数・問題傾向の説明 「公衆衛生の意義と課題」「公衆衛生発展の歴史」「理容師・美容師と公衆衛生」「保健所と理容業・美容業」の復習
2	1編 公衆衛生 2章 保健①	「母子保健」「成人・高齢者保健」①の復習
3	1編 公衆衛生 2章 保健②	「成人・高齢者保健」②「精神保健」の復習
4	1編のまとめ 2編 環境衛生 1章 環境衛生①	単元テストを実施→振り返り・解説 「環境衛生の概要」「空気環境」の復習

5	2編 環境衛生 1章 環境衛生②	「衣服・住居の衛生」「上下水道と廃棄物」の復習
6	2編 環境衛生 2章 環境衛生③	「衛生害虫とネズミ」「環境保全」の復習
7	2編のまとめ 3編 感染症 1章 感染症の総論①	単元テストを実施→振り返り・解説 「人と感染症」の復習
8	3編 感染症 1章 感染症の総論②	「病原微生物」の復習
9	感染症の総論①のまとめ 3編 感染症 1章 感染症の総論③	感染症の総論① 単元テストを実施→振り返り・解説 「感染症の予防」の復習
10	感染症の総論②のまとめ 3編 感染症 2章 感染症の各論①	感染症の総論② 単元テストを実施→振り返り・解説 「空気・飛沫を介して感染する感染症」の復習
11	3編 感染症 2章 感染症の各論②	「飲食物を介して感染する感染症」の復習 「血液等を介して感染する感染症」の復習
12	3編 感染症 2章 感染症の各論③	「動物・節足動物を介して感染する感染症」の復習 「具体的な対策の例」の復習
13	感染症の各論のまとめ 3編の総まとめ	感染症の各論 単元テストを実施→振り返り・解説 3編の総まとめを実施する
14	テスト	テストを実施する
15	総合授業	テストを返却→振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅰ-Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅰ-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理1 衛生管理2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安井千春 他3名	実務経験	○		
実務内容	病院、調剤薬局にて薬剤師として勤務後、2002年から「衛生管理」「美容保健」を担当				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論①	「消毒法とは」「消毒の意義」の復習 「理容・美容の業務と消毒との関係」の復習
2	第4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論② 消毒法総論まとめ	「消毒法と適用上の注意」の復習 単元テストを実施→振り返り・解説
3	第4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論①	「理学的消毒法・化学的消毒法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習
4	第4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論② 消毒法各論まとめ	「理学的消毒法・化学的消毒法の消毒方法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習 単元テストを実施→振り返り・解説

5	第4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習①	「各種消毒薬」(消毒液の概要、器具の使い方、常備しておくとい消毒薬と希釈液の濃度、消毒薬希釈液法)の復習
6	第4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習②	「理容所・美容所の消毒の実際」①(理容所・美容所における消毒の原則、消毒設備、器具類の消毒法、理容師・美容師の手指の消毒) 「理美容所の清潔法の実際」②(清潔保持と清掃、洗剤による清浄法、洗い場の構造と清潔保持、清掃、刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒、ハエやカなどの駆除)
7	消毒法実習まとめ 第5編 衛生管理の実践例 1章 衛生管理要領①	単元テストを実施→振り返り・解説 第1 目的～第4 衛生的取り扱い等①
8	第5編 衛生管理の実践例 1章 衛生管理要領②	第1 目的～第4 衛生的取り扱い等② 第5 消毒～第6 自主的管理体制
9	衛生管理の実践例まとめ 4編の総まとめ	単元テストを実施→振り返り・解説 まとめを実施する。振り返り・解説
10	テスト	テストを実施する
11	国試過去問演習①	テストを返却→振り返り・解説 美容師国家試験過去問の演習と解説
12	国試過去問演習②	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	国試過去問演習③	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	国試過去問演習④	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ-I		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ-I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	保健1 保健2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域(2編皮膚科学)に関する正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の修得を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安井千春 他3名	実務経験		○	
実務内容	病院、調剤薬局にて薬剤師として勤務後、2002年から「衛生管理」「美容保健」を担当				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	人体の構造および機能の復習 (第1章～2章)	頭部・顔部・頸部の体表解剖学、骨格器系の演習(国家試験過去問題)と解説
2	人体の構造および機能の復習 (第3章～4章)	筋系、神経系の演習(国家試験過去問題)と解説
3	人体の構造および機能の復習 (第5章～7章)	感覚器、血液、循環器系の演習(国家試験過去問題)と解説
4	人体の構造および機能の復習 (第8章～9章)	呼吸器系、消化器系の演習(国家試験過去問題)と解説
5	皮膚科学(第1章)	皮膚の構造
6	皮膚科学(第2章)	皮膚付属機関の構造 1項 毛
7	皮膚科学(第2章～3章)	皮膚付属器官の構造 2項脂腺 3項汗腺 4項爪 皮膚の循環器系と神経系

8	皮膚科学(第4章)	皮膚と付属器官の生理機能
9	総まとめ	テストを実施する
10	皮膚科学(第5章)	皮膚と皮膚付属器官の保健
11	皮膚科学(第6章)	皮膚と皮膚付属器官の疾患 1項 皮膚の異常と病態 2項 皮膚炎・湿疹・3項 蕁麻疹・4項 薬疹 5項 口唇の疾患
12	皮膚科学(第6章)	皮膚と皮膚付属器官の疾患 6項 温熱・寒冷による皮膚障害 7項 角化異常による皮膚疾患 8項 色素異常による皮膚疾患 9項 血管腫 10項 脂腺母斑 11項 下肢静脈瘤 12項 分泌異常による皮膚疾患
13	皮膚科学(第6章)	皮膚と皮膚付属器官の疾患 13項 化膿菌による皮膚疾患 14項 ウイルスによる皮膚疾患 15項 真菌による皮膚疾患 16項 衛生害虫による皮膚疾患 17項 感染症の皮膚予防 18項 毛と爪の疾患 19項 皮膚の腫瘍
14	総まとめ	テストを実施する
15	解説 皮膚科学(第6章)	振り返り・テスト解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ-Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	保健1 保健2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域(2編皮膚科学)に関する正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の修得を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安井千春 他3名	実務経験	○		
実務内容	病院、調剤薬局にて薬剤師として勤務後、2002年から「衛生管理」「美容保健」を担当				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚科学の復習(第1~2章)	皮膚の構造と皮膚の付属器官の構造の演習と解説
2	皮膚科学の復習(第2章~4章)	皮膚の付属器官の構造と循環器系と神経系の演習と解説
3	皮膚科学の復習(第5章)	皮膚と付属器官の保健の演習と解説
4	皮膚科学の復習(第6章)	皮膚と付属器官の疾患の演習と解説
5	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
6	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
7	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習

8	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
9	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
10	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
11	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
12	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
13	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
14	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
15	国家試験対策	国家試験前重要ポイント復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ-I		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ-I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	化粧品化学1 化粧品化学2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「化粧品化学」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	池村 真弓他1名	実務経験	○		
実務内容	国立大学にて9年間、薬物中毒の研究および学生指導に従事。薬局に3年間勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 1章 化粧品概論	美容師免許を所得する上での必要性 取得までの流れを説明する
2	1章 化粧品概論	「化粧品とは何か」「薬機法とは何か」「美容師との関係は？」
3	2章 化粧品原料	「化粧品の対象となる人体各部の性状」「水性原料」「油性原料」の解説と演習
4	2章 化粧品原料	「油性原料」「界面活性剤」「高分子化合物」の解説と演習
5	2章 化粧品原料	「色材」「香料」「その他配合成分」「ネイル、まつ毛エクステンション用材料」の解説と演習
6	3章 基礎化粧品	「皮膚洗浄用化粧品」「化粧水」「クリーム・乳液」「その他の基礎化粧品」「メイクアップ用化粧品」の解説と演習

7	4章 メイクアップ用化粧品 5章 頭皮・毛髪用化粧品	「メイクアップ化粧品の種類と剤形」「ベースメイクアップ化粧品」 「ポイントメイクアップ化粧品」の解説と演習 「シャンプー剤」「スタイリング剤」の解説と演習
8	まとめ	まとめを行う
9	5章 頭皮・毛髪用化粧品	「スタイリング剤」の解説と演習
10	5章 頭皮・毛髪用化粧品	「パーマ剤」の解説と演習
11	5章 頭皮・毛髪用化粧品	「ヘアカラー」の解説と演習
12	6章 芳香製品と特殊化粧品	「芳香・特殊化粧品」「特殊化粧品」の解説と演習
13	6章 芳香製品と特殊化粧品	「芳香・特殊化粧品」「特殊化粧品」の解説と演習
14	まとめ	まとめを行う
15	解説	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ-Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	化粧品化学1 化粧品化学2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「化粧品化学」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	池村 真弓他1名	実務経験	○		
実務内容	国立大学にて9年間、薬物中毒の研究および学生指導に従事。薬局に3年間勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	付録 化粧品化学を理解するための基礎化学 付録1～付録2	「物質の構成」「物質(水)の構成」の解説と演習
2	化粧品化学を理解するための基礎化学 付録3～付録5	「溶液とコロイド」「イオンと水素イオン指数」「物質の変化と化学反応」の解説と演習

3	化粧品化学を理解するための基礎化学 付録6～付録7	「酸化・還元反応」「タンパク質」の解説と演習 化学範囲の復習
4	化粧品化学	「化粧品分野」重点項目の復習と確認
5	化粧品化学	「化粧品分野」重点項目の復習と確認
6	化粧品化学	「化粧品分野」重点項目の復習と確認
7	化粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
8	化粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
9	化粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
10	まとめ	まとめを行う
11	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説
12	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
13	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
14	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
15	国家試験対策	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ-Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ-Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	関係法規・制度1 関係法規・制度2(美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる				
評価基準	テスト(小テスト等含む):75% 授業態度(提出物等含む):25%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐伯倫生 他1名	実務経験		○	
実務内容	大手通信会社にて勤務後、インドネシアにて観光会社を設立 帰国後、各学校で講師を行いながら投資事業を行う				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション 第1章・第2章の復習	国家試験における関係法規の出題数や傾向の説明 成績・評価の説明 第1章・第2章の復習
2	第3章の復習	第3章1節～3節「美容師になるまで」の復習
3	第3章の復習	第3章3節「美容師に求められる義務」～「管理美容師」の復習
4	第3章 理容師法・美容師法 第4節	美容所の開設に必要な届出・検査
5	第3章 理容師法・美容師法 第4節	開設者が求められる義務および美容所以外での業務
6	第3章 理容師法・美容師法 第5節	立入検査と環境衛生監視員

7	まとめ	まとめを行う
8	解説・まとめ	振り返り・解説
9	第3章 理容師法・美容師法 第6節	違反者に対する行政処分
10	第3章 理容師法・美容師法 第7節	違反者に対する罰則
11	第4章 関連法規	美容業の衛生に関する関連法規
12	第4章 関連法規	美容業の振興に関する関連法規
13	第4章 関連法規	美容業の雇用、消費者保護に関する関連法規
14	まとめ	まとめを行う
15	解説・総まとめ	振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ-Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ-Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	関係法規・制度1 関係法規・制度2(美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる				
評価基準	テスト(小テスト等含む):75% 授業態度(提出物等含む):25%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐伯倫生 他1名	実務経験		○	
実務内容	大手通信会社にて勤務後、インドネシアにて観光会社を設立 帰国後、各学校で講師を行いながら投資事業を行う				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 第2章の復習	ワークブックを用いて問題演習
2	第3章の復習(1)	ワークブックを用いて問題演習
3	第3章の復習(2)	ワークブックを用いて問題演習
4	第3章の復習(3)・第4章の復習(1)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
5	第4章の復習(2)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
6	まとめ	まとめを行う
7	解説・まとめ	振り返り・解説

8	総復習(1)	国家試験過去問演習等
9	総復習(2)	国家試験過去問演習等
10	総復習(3)	国家試験過去問演習等
11	総復習(4)	国家試験過去問演習等
12	総復習(5)	国家試験過去問演習等
13	まとめ	まとめを行う
14	解説・まとめ	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストヘア I		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘア I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ヘアアレンジ道具一式・メイク道具一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	作品づくりに意欲的に取り組み、既存の技術プラス新しい発想を持てる力を身に付ける				
到達目標	今まで得た知識をもとに様々なジャンルのメイクに挑戦する				
評価基準	テスト40%、作品作り40%、提出物20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	コンテストメイク I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	垣内 里月	実務経験		○	
実務内容	ヘアメイクサロンにてスタイリストとしてヘアメイク、撮影、着付けを担当。現在はアイブロウリストとして活躍中。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	この授業の目的・評価基準・マナールール説明 教材確認(教材の名称・扱い方・管理方法)・前期スケジュール伝達、作品鑑賞
2	1クール目	①テーマ決め
3		②作品作成の準備
4		③作品の作成及び撮影(セルフ)
5	2クール目	①テーマ決め
6		②作品作成の準備
7		③作品の作成及び撮影(セルフ)

8	3クール目	①テーマ決め
9		②作品作成の準備
10		③作品の作成及び撮影(セルフ)
11	4クール目	①テーマ決め
12		②作品作成の準備
13		③作品の作成及び撮影(セルフ)
14	まとめ(作品提出)	最終クールのテーマ作品を作成し、データでの提出
15	前期振り返り	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストヘアⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘアⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材			出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい					
到達目標					
評価基準	テスト40%、作品作り40%、提出物20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	コンテストメイクⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	垣内 里月	実務経験		○	
実務内容	ヘアメイクサロンにてスタイリストとしてヘアメイク、撮影、着付けを担当。現在はアイブロウリストとして活躍中。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1クール目	①テーマ決め
2		②作品作成の準備
3		③作品の作成及び撮影(セルフ)
4	2クール目	①テーマ決め
5		②作品作成の準備
6		③作品の作成及び撮影(セルフ)

7		①テーマ決め
8	3クール目	②作品作成の準備
9		③作品の作成及び撮影(セルフ)
10		最終クールのテーマ作品を作成し、データでの提出
11	まとめ(作品提出)	
12	シャンプーイング	シャンプー台の利用の仕方、シャンプー知識、シャワーヘッドの使用法、シャンプープロセスの理解
13	シャンプーイング	シャンプー □ トリートメント □ ブロー 導入
14	シャンプーイング	シャンプー □ トリートメント □ ブロー及び仕上げ(アイロン技術・コテ技術)
15	シャンプーイング	シャンプー □ トリートメント □ ブロー及び仕上げ(アイロン技術・コテ技術)

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストメイク I		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイク I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ヘアアレンジ道具一式・メイク道具一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	作品づくりに意欲的に取り組み、既存の技術プラス新しい発想を持てる力を身に付ける				
到達目標	今まで得た知識をもとに様々なジャンルのメイクに挑戦する				
評価基準	テスト40%、作品作り40%、提出物20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	コンテストヘア I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	藤木 有希子 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容室にて美容師として勤務のちヘアメイクアップアーティストとして長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	この授業の目的・評価基準・マナールール説明 教材確認(教材の名称・扱い方・管理方法)・前期スケジュール伝達、作品鑑賞
2	1クール目	①テーマ決め
3		②作品作成の準備
4		③作品の作成及び撮影(セルフ)
5	2クール目	①テーマ決め
6		②作品作成の準備
7		③作品の作成及び撮影(セルフ)

8	3クール目	①テーマ決め
9		②作品作成の準備
10		③作品の作成及び撮影(セルフ)
11	4クール目	①テーマ決め
12		②作品作成の準備
13		③作品の作成及び撮影(セルフ)
14	まとめ(作品提出)	最終クールのテーマ作品を作成し、データでの提出
15	前期振り返り	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテストメイクⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい					
到達目標					
評価基準	テスト40%、作品作り40%、提出物20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	コンテストヘアⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	藤木 有希子 他1名	実務経験		○	
実務内容	美容室にて美容師として勤務のちヘアメイクアップアーティストとして長年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1クール目	①テーマ決め
2		②作品作成の準備
3		③作品の作成及び撮影(セルフ)
4	2クール目	①テーマ決め
5		②作品作成の準備
6		③作品の作成及び撮影(セルフ)

7		①テーマ決め
8	3クール目	②作品作成の準備
9		③作品の作成及び撮影(セルフ)
10		最終クールのテーマ作品を作成し、データでの提出
11	まとめ(作品提出)	
12	シャンプーイング	シャンプー台の利用の仕方、シャンプー知識、シャワーヘッドの使用方法、シャンプープロセスの理解
13	シャンプーイング	シャンプー □ トリートメント □ ブロー 導入
14	シャンプーイング	シャンプー □ トリートメント □ ブロー及び仕上げ(アイロン技術・コテ技術)
15	シャンプーイング	シャンプー □ トリートメント □ ブロー及び仕上げ(アイロン技術・コテ技術)

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	カット道具一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	カット、カラーの正しい知識、技術を身につける。				
到達目標	カラー・カットの技術を学ぶ。				
評価基準	実技テスト60% 提出物20% 授業態度20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容実習				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	村上慶太他6名	実務経験		○	
実務内容	美容師として長きにわたり活躍。現在、美容室の代表取締役社長。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	カットイング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
2	カットイング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
3	カットイング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
4	カットイング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
5	カットイング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
6	カットイング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
7	カットイング	プロアクティブの内容と連動したカット技術

8	カッティング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
9	カッティング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
10	カッティング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
11	カッティング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
12	カッティング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
13	カッティング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
14	カッティング	プロアクティブの内容と連動したカット技術
15	総まとめ	プロアクティブと連動してまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	カット道具一式		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家試験課題の技術向上を図る				
到達目標	国家試験課題の技術向上を図る				
評価基準	テスト50% 授業態度25% 提出物25%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上のもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	村上慶太他6名	実務経験		○	
実務内容	美容師として長きにわたり活躍。現在、美容室の代表取締役社長。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	後期の技術の流れを伝える
2	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
3	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
4	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
5	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
6	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
7	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定

8	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
9	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
10	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
11	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
12	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
13	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
14	国家試験第二課題	国家試験課題 タイム測定
15	総まとめ	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プロアクティブ I		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブ I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	カラー、カット道具一式	出版社	なし		

科目の基礎情報②

授業のねらい	カット、カラーの正しい知識、技術を身につける。				
到達目標	カラー・カットの技術を学ぶ。				
評価基準	実技テスト60% 提出物20% 授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容実習				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	村上慶太他6名	実務経験	○		
実務内容	美容師として長きにわたり活躍。現在、美容室の代表取締役社長。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	カット	シザーワーク、カットの基本姿勢・動作、ワンレングスカット
2	カラー	カラーの理論、カラー剤の違い、ポイントブリーチ
3		色を載せて見る色味の配合について
4		ホイルワーク(スライシング、ウィーピング)
5		シザーワーク グラデーション
6	カット	シザーワーク レイヤー・セニング

7		デッサン・案・組合せについて
8	デッサン	カラー込みデッサン・案・組合せについて
9	カラー、カット	実践カラー仕込み～カット(ショート)
10	スタイリング	スタイリングの仕方
11	デッサン	テストに向けてデッサン画
12		仕込み練習
13	仕込み	仕込み
14	総まとめ	総まとめ
15	振り返り	前期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プロアクティブⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	45
使用教材	まつ毛エクステの道具一式 ABE text book Assisutant director		出版社	日本理美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	まつ毛エクステについて理解し、装着ができるようになる				
到達目標	まつ毛エクステ検定に合格できるようにする				
評価基準	テスト50% 授業態度25% 提出物25%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上のもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容実習				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中原明日香 他5名	実務経験		○	
実務内容	大阪のアイラッシュサロンで7年間勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【理論】道具の確認・エクステンション概論 【実技】ワゴンセッティング・技術	まつ毛エクステに使用する道具の名称などを確認する 実際に使用する道具を使用し、机上をワゴンに見立ててセッティングの場所を覚える まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する
2	【理論】用具 【実技】ワゴンセッティング・技術	まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する
3	【理論】用具 【実技】ワゴンセッティング・技術	まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する
4	【理論】衛生管理 【実技】まつ毛エクステンション技術	まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する
5	【理論】保健(目・皮膚) 【実技】テーピング	まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する
6	【理論】保健(目・皮膚) 【実技】リムービング	まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する
7	【理論】保健(まつ毛の知識) 【実技】技術復習	まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する

8	【理論】カウンセリング 【実技】技術復習	まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する
9	【理論】カウンセリング 【実技】タイムトライアル	まつ毛エクステに必要な知識・実技を勉強する
10	【理論】検定対策 【実技】タイムトライアル	検定に必要な知識・実技を勉強する
11	【理論】検定対策 【実技】タイムトライアル	検定に必要な知識・実技を勉強する
12	【理論】検定対策 【実技】タイムトライアル	検定に必要な知識・実技を勉強する
13	【理論】テスト 【実技】テスト	実技・筆記のテストを行う
14	総合授業	ラッシュユリフト導入
15	まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策 I		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策 I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職に対する意識を高める 納得した上でエントリーさせ、内定辞退を無くす				
到達目標	就職の早期決定				
評価基準	授業態度30% 提出物30% 定期試験40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	竹中勇樹	実務経験	○		
実務内容	美容室にて美容師として従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	—就職活動について、就職対策の成績の付け方 —就職希望調査を行う（アンケート内容は各コース内にて検討対応） —自己PR完成
2	面接対策	面接時・サロン見学时における注意事項
3	文章作成	自己PR・志望動機
4	文章作成	志望動機・履歴書完成
5	文章作成	履歴書完成・封筒・お礼状・添え状

6	面接対策	模擬面接
7	中間 総まとめ	中間 総まとめ
8	面接対策	模擬面接
9	面接対策	模擬面接
10	面接対策	模擬面接
11	期末 総まとめ	期末 総まとめ
12	面接対策	模擬面接
13	面接対策	模擬面接
14	面接対策	模擬面接
15	総合授業	総合授業

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職に対する意識を高める 納得した上でエントリーさせ、内定辞退を無くす				
到達目標	就職の早期決定				
評価基準	授業態度30% 提出物30% 定期試験40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	竹中勇樹	実務経験	○		
実務内容	美容室にて美容師として従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	
2	文章作成	1分間スピーチを作成(300文字で)
3	文章作成	1分間スピーチを作成(300文字で)・グループワーク(発表)
4	文章作成	グループワーク(発表)
5	中間 総まとめ	中間 総まとめ
6	敬語練習	職場での応対用語について

7	敬語練習	職場での応対用語について
8	社会人とは	職業映像鑑賞
9	社会人とは	職業映像鑑賞
10	社会人とは	職業映像鑑賞
11	期末 総まとめ	期末 総まとめ
12	2年間を振り返って	学生期間を振り返る
13	2年間を振り返って	社会人スケジュール作成
14	2年間を振り返って	社会人スケジュール作成
15	総合授業	総合授業

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックB		
必修選択	選択	(学則表記)	美容ベーシックB		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	90
使用教材	ワインディングまたはオールウェーブ教材一式・ カッティング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験 実技試験合格に向けた授業 試験時間内に合格基準を満たす技術を習得する				
到達目標	美容師国家試験 第1課題・第2課題・国家試験衛生合格レベルを習得する				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論 I				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田佳奈	実務経験		○	
実務内容	美容師として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
2	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
3	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
4	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
5	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
6	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生

7	国家試験第1課題・第2課題 まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 まとめを実施する
8	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
9	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
10	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
11	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
12	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
13	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
14	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
15	国家試験第1課題・第2課題 総まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 総まとめを実施する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅴ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	美容文化論教科書 運営管理教科書 ノート		出版社	公益社団法人 日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	<p>【美容文化論】 美容経営者として活躍する上で必要とする知識の基礎を理解する。 美容業界で活躍していくために、美容全般の技術と理論について習得する。</p> <p>【運営管理】 美容師国家試験筆記試験課題の「運営管理」の正しい知識を身につける。</p>				
到達目標	<p>【美容文化論】 自身で生活の中から知識や理論を深めることができる。 美容師国家試験(筆記)に向けて適切な記述ができる。</p> <p>【運営管理】 美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。</p>				
評価基準	テスト:50% 小テスト:30% 授業態度:20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐伯倫生 他2名	実務経験		○	
実務内容	大手通信会社勤務後、インドネシアにて観光会社を設立。その後高等学校教員取得後し、フリー講師として活動。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	【美容文化論】 第1章 総論 第2章 日本の理容業・美容業の歴史 第3章 ファッション文化史 日本編	第1章総論 第2章第1節理容業・美容業の発生第2節江戸時代の理容業・美容業 第3節近代の美容業・美容業第4節現代の理容業・美容業 第3章ファッション文化史日本編 第1節縄文・弥生・古墳時代 第2節古代(飛鳥・奈良・平安時代)
2	【美容文化論】 第3章 ファッション文化史 日本編	第3節中世(平安末・鎌倉・室町・戦国時代) 第4節近世Ⅰ(戦国末・安土桃山時代) 第5節近世Ⅱ(江戸時代) 第6節近代(明治・大正・昭和20年まで)①髪型
3	【美容文化論】 第3章 ファッション文化史 日本編	第6節近代(明治・大正・昭和20年まで)②化粧③服装 第7節現代Ⅰ(1945年～1950年代) 第8節現代Ⅱ(1960年代～1970年代) 第9節現代Ⅲ(1980年代～1990年代) 第10節現代Ⅳ(2000年代以降)
4	【美容文化論】 小テスト 第4章 ファッション文化史 西洋編	第1節 古代エジプト 第2節 古代ギリシャ・ローマ 第3節 古代ゲルマン 第4節 中世ヨーロッパ 第5節 近世Ⅰ(16世紀) 第6節 近世Ⅱ(17世紀)
5	第4章 ファッション文化史 西洋編	第7節 近世Ⅲ(18世紀) 第8節 近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め) 第9節 近代Ⅱ(19世紀) 第10節 現代Ⅰ(1910年代～1920年代)
6	【美容文化論】 第4章 ファッション文化史 西洋編	第11節 現代Ⅱ(1930年代～1940年代前半) 第12節 現代Ⅲ(1940年代後半～1950年代) 第13節 現代Ⅳ(1960年代) 第14節 現代Ⅴ(1970年代) 第15節 現代Ⅵ(1980年代) 第16節 現代Ⅶ(1990年代～2010年)
7	【美容文化論】 テスト 第5章礼装の種類	授業習得度の確認 第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装
8	【美容文化論】 テスト 解説 第5章 礼装の種類	授業分のテスト回答/解説及び間違えやすい設問の注意点 第5章礼装の種類第2節洋装の礼装 まとめ

9	<p>【運営管理】 第1編 経営の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第2章 理容業・美容業の経営について</p>	<p>経営とは、経営者とは 経営資源・経営戦略とは 理美容業界の現状・動向について</p>
10	<p>【運営管理】 第3章 資金の管理</p>	<p>資金管理の重要性について</p>
11	<p>【運営管理】 第2編 人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源 第2章 健康・安全な職場環境の実現</p>	<p>人という資源について 労務管理の基本と労働基準法の基本について 健康管理の基礎について</p>
12	<p>【運営管理】 第3章 従業員としての視点から1</p>	<p>社会人としての責任を自覚 社会保険について①②</p>
13	<p>【運営管理】 第3章 従業員としての視点から2</p>	<p>社会人としての責任を自覚 社会保険について③</p>
14	<p>【運営管理】 第3編 顧客のために 第1章 サービス・デザイン 第2章 マーケティング</p>	<p>顧客が求める価値とは サービスデザインを構築するための考え 理容業・美容業のマーケティングについて知る① 理容業・美容業のマーケティングについて知る②</p>
15	<p>【運営管理】 第3章 サービスにおける人の役割</p>	<p>接客の流れについて、 発生が予想される問題とその対策について</p>